

- 02 地域を元気にする
田んぼアートプロジェクトを
一緒に盛り上げよう!
- 04 市長コラム
- 05 目次
イベント情報
- 06 行政情報
- 08 人事行政の運営などの状況
- 09 国保だより
- 10 健康いいカラダ
- 11 いきいき介護
- 12 げんきな親子
- 13 新しい小学校が誕生します
- 15 令和元年分 申告相談
- 18 令和元年分 確定申告
- 19 あきたかためし
- 20 としよもっと!
- 22 HOTな話題
- 23 人輝く
- 24 令和2年 安芸高田市消防出初式
- 26 消防
- 27 警察
国民年金のあれこれ
- 28 歴史紀行
- 29 トピックス/募集
- 30 およこび・おくやみ
- 31 2月の相談
- 32 安芸高田のアイドル



〈今月の表紙〉
今年の出初式での一斉放水

本庁・支所連絡先

安芸高田市 ☎ お太助フォン 42-2111 (代)
 八千代支所 ☎ お太助フォン 52-2111
 美土里支所 ☎ お太助フォン 54-0311
 高宮支所 ☎ お太助フォン 57-0311
 甲田支所 ☎ お太助フォン 45-4111
 向原支所 ☎ お太助フォン 46-3111

市役所開庁時間 8:30~17:15
 (土曜・日曜日、祝日、年末年始は閉庁)

安芸高田市
ホームページ

https://www.akitakata.jp



2月のイベント情報

今月開催の市内イベント情報をお知らせします

2/12水 安芸高田市
3/2月 児童・生徒自画像展

☑八千代の丘美術館(八千代町勝田)
 ☑八千代の丘美術館
 ☎お太助フォン52-3050

子どもたちが芸術に親しむとともに、自分を見つめる機会にしておらうと毎年開催している「児童・生徒自画像展」。市内小、中学校の児童、生徒から募集した自画像を展示します。



2/16日 安芸高田市民フォーラム

☑クリスタルアージョ(吉田町吉田)
 ☑13時開会(12時30分開場)
 ☑地方創生推進課 まちづくり支援係
 ☎お太助フォン42-2124

地域総活躍のまちづくり活動の活性化に向け、藤山浩さん(一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所所長)の講演や、市内の企業、文化教室など、各種団体の展示販売・活動展示が行われます。



2/28金 はやぶさ2プロジェクトマネージャー
津田雄一氏講演会

☑クリスタルアージョ(吉田町吉田)
 ☑18時30分~20時(18時開場)
 ☑生涯学習課 社会教育係
 ☎お太助フォン42-0054

世界的な偉業を成し遂げた小惑星探査機「はやぶさ2」。この事業のプロジェクトマネージャーである津田雄一氏の講演会を開催します。



ぶっちーから 姉妹都市防府市の
イベント情報が届きました

防府市
連携企画

聞いてよ! たかたん

たかたんへ
防府市の防府天満宮で、2月16日(日)から3月1日(日)まで「梅まつり」があるよ! 天神様のシンボルの梅が、境内いっぱい咲き誇ってとってもきれいなんだ。稚児舞や甘酒接待、人形感謝祭などの楽しいイベントもたくさんあるから、たかたんもぜひ遊びに来てね!

ぶっちー



自治体のAI活用

AI(人工知能)という言葉は、毎日のようにテレビや新聞などで目にするようになりまし。AIは専門家の中でも明確に定義されていませんが、一般的には「人間の知的活動をプログラムで再現したもの」を指しています。AI自らが学習・分析を行う点で通常のコンピューターとは異なり、2045年には、「AIが人類よりも正確で賢明な判断を下せるようになる」という説もあります。

AIの研究開発や利活用は、車の自動運転や医療・介護、農業など様々な分野に広がっており、今後急速に進展し、社会の課題解決に大きく貢献することが期待されています。一方、判断基準の透明性や制御喪失などのリスクに基づくAIへの不安、AIの判断によつて事故が発生したときの責任の所在などが課題とされています。

そこで政府は、昨年8月にAIネットワーク化の健全な進展を通じてAIの利活用や社会実装を促進することを目的とし、「AI利活用ガイドライン」を策定しました。このガイドラインで

は次のようなことが理念として掲げられています。

- 人間の尊厳が尊重され、人間中心の社会が実現されること
- AIの開発・提供・利用に関わった人が、適切に分担し責任を負うこと
- AI利活用による便益とリスクの適正なバランスを確保すること
- 効果を得るのに効果的な手法や指針について国際的に共有すること
- 本理念は、社会情勢等に応じ、今後柔軟に進化・発展させること

AIの利活用は実証実験段階のものも多く、高度な実用化はまだ広くはなされていませんが、自治体でのAI活用を考えると、「AIチャットボットの導入(土日や夜間含め職員が不在でも問い合わせに対する自動応答が可能)」、「高齢者の介護・自立支援に係るケアプラン作成補助(最適なケアマネジメントを提案)」、「農作業の高精度化(気象・土壌データなどを解析し、農作業スケジュールを最適化)」などが現時点で有効な活用方法だと



思います。

今後も、本市を含め日本全体で人口の減少は続いていきます。現役世代がより少ない人口で高齢者を支えていくことを考えたとき、AIの活用は必須です。しかし、AIの能力がどれだけ向上しようとも、AIが活躍する社会を作るのは人間であり、人間ならではの良さは大切にしていかなければなりません。市としてもAIの活用の際には、人間の良さを強みを大切にしながら、住民サービスへ最も効果的な手法を模索し、みなさまが安心して使える生活ができるよう取り組んでまいります。